

1 今月の『一読あれ』

外は雨、家で推理や空想散歩～ミステリー・SF特集

6月は梅雨の季節。しとしと雨が降る日が増え、外出もおっくうになりがちではないでしょうか。今月は、そんな雨の日に読むのがおすすめのミステリー小説と、SF小説を集めました。手に汗を握りながら推理を進めるもよし、空想の未来都市に思いをはせるもよし。じめじめした気持ちもどこかへいってしまうかもしれません。

『一九八四年』 ジョージ・オーウェル著 933/O71 2F小型本

全体主義により監視社会となった近未来が描かれているこの本。全体主義が台頭すると話題になる本でもあります。20世紀世界文学の最高傑作、一度読んでみては。

『僕は秋子に借りがある 森博嗣自選短編集』 森博嗣著 913.6/Mo45 2F和図書B

最高にミステリアスでトリッキィな思い出を綴る表題作の他、少しほろ苦さの残る短編13編。

『紙の動物園』 ケン・リュウ著 933/L73 2F和図書B

中国人の母親が折り紙で作る動物たちには命が吹き込まれ、息子の目の前で静かに動き出す…。収められた15篇の短編は、静かでやさしく、少し不思議な空気が漂います。

『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』 フィリップ・K・ディック著 933/D72 2F小型本

汚染された環境の下、生きた動物を持つことがステータスとなっている地球で、電気羊しか持っていない男が、本物の動物を手に入れるために奮起する! 映画『ブレッドランナー』の原作本。

『チーム・バチスタの栄光』 海堂尊著 913.6/Ka21 2F和図書B

3例続けて術死が発生。田口は白鳥と医療過誤か殺人か調査します。ドラマと異なる展開…!

『数学ミステリーX教授を殺したのはだれだ! : 容疑者はみんな数学者!?』

トドリス・アンドリオプロス原著 410.4/A48 2F小型本(ブルーボックス)

世界的に有名な天才数学者X教授が殺された…。容疑者は全員数学者。パリの警部やその友人の数学者クルトと共に、問題を解いて容疑者を絞り込んでいく数学ミステリーです。

『腕貫探偵』 西澤保彦著 913.6/N87 2F小型本

大学、病院、警察署…に出没する「市民サービス課臨時出張所」。謎の“腕貫”着用職員が市民の悩みを次々に解明していきます。ユーモアたっぷりの連作ミステリー7編。

『黒猫の遊歩あるいは美学講義』 森晶磨著 913.6/Mo45 2F和図書B

「黒猫」と呼ばれる若き大学教授と、大学院生「付き人」が謎を解き明かしていく短編集。

『わたしはロボット』 アイザック・アシモフ著 933/A92 2F小型本

生化学者の著者によって書かれたロボットと人間の関係を描く連作短編集。ロボットSFの名作と言われています。AIが進出しつつある今、この内容はSFではなくなりつつあるのかも?

『不可能犯罪コレクション』 二階堂黎人編 913.68/N73 2F和図書B

犯人の足跡なき密室殺人、誰もいない屋上からの墜落死、衆人環視の舞台上での不可解な殺人、魔法か魔術としか思えない奇怪な二重殺傷事件など、不可能犯罪をテーマにした6つの短編。

3F中央ホールで展示中!
貸出できます